

2016年7月22日

国立大学法人三重大学
学長 駒田 美弘 様

三重大学教職員組合
中央執行委員長 小田 敦子

公開質問状

日頃は、三重大学教職員組合の活動に対してご理解を頂き、誠にありがとうございます。

6月21日、工学研究科において、技術部長でもある清水研究科長から、技術部人事（新規採用）において、今年度の人事凍結、延期の報告があり、その凍結した技術職員の人件費を原資とし、新たに研究のみを行う助教を採用したいとのことでした。これまで、技術部職員の採用は順調に行われ、技術の継承等を行い全学及び研究科内の教育研究支援を行ってきております。

そこで、今回の人事凍結、延期問題に関して、駒田学長に質問させて頂きたく思いますので、7月末までに書面にてご回答の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

1. 今年5月、新たに自然科学系技術部が発足し、将来的にはフィールド技術部を含め、全学を一元化した組織改革が構想されています。これにより、今後、技術支援体制が益々充実していくことが期待されます。しかしながら、今回打ち出された技術部人事の凍結・延期は、こうした流れに反するものであり、我々としては、到底納得のいくものではありません。本学に、技術職員の削減計画が存在するのでしょうか。もし、あるなら、それはゆゆしきことと考えます。一方、無いのであれば、今回のような人事権行使は許し難いことと考えますが、如何でしょうか。
2. この計画が進んでいくと、現場で日々の業務を行う技術職員の負担の増加や士気の低下によって各種支援業務は後退となり、技術部組織の崩壊を招くことにならないでしょうか。また、ひいては事務職員の人件費利用にも飛び火し、全学の組織体系の混乱に至らないでしょうか。
3. 本学にはテニユアトラック制度がありますが、今回の助教はそれでもなく単に5年任期の助教と思われれます。このような身分の不安定な助教職がつくられることは、本人においても本学においても好ましいことでないと思いますが、如何でしょうか。

以上